

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 熊野町立熊野第四小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒731-4223
広島県安芸郡熊野町川角五丁目 13-1
E-mail kuma04te@piano.ocn.ne.jp
Website http://kuma5145.ec-net.jp/
児童生徒数 男子 206名 女子 190名 合計 396名
児童・生徒の年齢 6歳～ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自分や周りを大切に、元気な未来を創る子どもの育成」を学校理念として、ESDを地域の自然や伝統と人々の生活について関心を持ち、探究的・協働的に学ぶことを通して、主体的に学ぶ学習者としての態度と実践力を身につけるとともに、明るい地域の未来を作る担い手としての自己の生き方を考えることができることと捉え、ESDの実践を通して課題発見・解決力、主体性、実行力、自己理解・自らへの自信、人としての思いやり、未来を担う志の育成を目標とした。

具体的には、地域の自然や伝統と人々の生活を柱に、①環境に係わる学習、②防災に係わる学習、③地域の伝統文化に係わる学習、④持続可能な生産と消費に係わる学習を行った。

① 環境に係わる学習

導入時のごみについての疑問を手がかりに、川探検を通して、二河川について知るための課題をもち、インターネット、インタビュー、図鑑などで調べ活動を行った。その際、他教科との関連を図りながら、知識を総合的に活用させて活動させた。

② 防災に係わる学習

自分たちが住んでいる熊野町の防災対策や危険個所、および、人々の災害に対する考えを調べ、現状と課題を知り、地域の人に知ってほしい防災についての情報を発信することを通して自分自身や周りの人の防災意識を高めることをねらいとした。

③ 地域の伝統文化に係わる学習

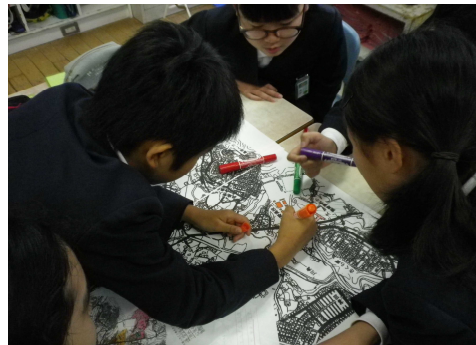
地域の伝統工芸士の方に筆作りを教わった。子供たちにとって初めての筆作り体験は、身近な筆の新たな発見になった。また、体験することで、作る方の苦勞に触れ、筆を大事に使用おうとする気持ちもより強まったようである。伝統工芸士のすばらしい技を目の当たりにし、将来の夢にと願う児童もいた。

④ 持続可能な生産と消費に係わる学習

田植え体験を通じての疑問を手がかりに、熊野の米作りについて知るための課題をもち、インターネット、インタビュー、図鑑などで調べ活動を行った。その際、農林水産省の統計情報を見せ、熊野町は耕地面積率に対して販売農家率が低いことに注目させた。



① の写真
(二河を調べる児童)



② の写真
(防災マップを作る児童)



③ の写真
(筆作りを体験する児童)



④ の写真
(田植えをする児童)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

| | | | |
|---|---|---|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間（複数選択可）

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「子どものための防災訓練ガイド」 汐文社
「防災なるほど解説」 フレーベル館
「防災対策大百科」 日本図書センター
「日本の米づくり」 岩崎書店
「世界と日本の食料問題」 文研出版
「自然のなかでエコ体験」 ポプラ社

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教科の学習内容や総合的な学習の時間の全体計画、および学校行事の活動内容に反映させている。また、ESD 観点で学習内容を整理した ESD カレンダーを作成し、ユネスコスクールとしての活動が年間を通して見えやすいように工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間を中心とした全体計画や年間指導計画を作成している。さらに、年度末のシラバス評価による年間指導計画の見直しにより、学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組めるよう、体制や環境を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末にユネスコスクールとしての活動を位置づけた教育課程（ESD カレンダー）の見直しを行っている。教科や総合的な学習の時間のシラバス、および ESD カレンダーの修正を行うことで、活動の質の向上を図っている。国内外のユネスコスクールとの交流やネットワークが形成できていないために ESD の活動推進拠点としての活動成果が十分に発信できていないことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

学習して分かったことや周りの人に知らせたいことを他学年や、地域の人に発表している。知らせたいことをまとめ新聞や歌にして発表したり、ポスターやハンドブックにまとめて周りに人に対する啓発を行ったりして活動の成果を発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

地域のボランティアグループ「プロジェクト三石山」と連携し、米作りや三石山への植樹、昔遊び等の活動を実施している。また、地域の筆事業組合とも連携し、伝統工芸士による筆作り体験を実施している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成は、学習内容や学習の準備、時間的な都合などにより今年度は実施していない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校で育てたい力の育成のために、ESD の視点で学習内容や学習活動を整理できたことにより、ユネスコスクールとしての視点を明確にした学習に取り組むことができた。地域の人々と連携した取組を推進することで児童と地域とのつながりが密になり、ふるさとを愛する児童の育成につながった。また、所属職員も地域や地域の人のことをよく知ることができ、学習が充実すると共に、地域と学校との関係性が深まった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

地域の自然や文化、人等に意図的、効果的に出会わせ、児童が意欲的に迫りたい課題を設定し、地域の人材（農業経験者、伝統文化継承者、ボランティアグループ等）と意図的・計画的に出会わせることでその教育力を効果的に生かせるようにする。そして、ポートフォリオ（ワークシートや観察カード、振り返りカード等を綴ったもの）を活用するなどして評価を充実させる。主な活動内容は以下のとおりである。

『熊野の魅力』 : 【多様】【責任】
「熊野のみりよくみつけ」
「筆豆づくり」「筆まつり」「筆おどり」

『熊野環境プロジェクト』: 【有限】【連携】
「ごみ減量大作戦」「二河川クリーン大作戦」

『地域の風土と食』: 【相互】【連携】
「熊野町と米作り」「食と私たちの生活」

『共に生きる』 : 【相互】【公平】
「ぼくたちの未来探し」「自然災害に備えよう」
「わたしたちのふるさと・三石山」